

ドリンク需要に応える超多収性のチャ新品種候補 「95-7-35」

[研究のねらい]

- ・近年、リーフ茶の消費が低迷する一方、ドリンク茶等の原料となる茶の需要は増加している。
 - ・原料茶の生産には低コスト化が不可欠であり、多収性の品種が求められている。
 - ・当センターでは、主力品種「やぶきた」の2倍の収量性を持つ超多収性のチャ新品種候補「95-7-35」を育成した。
- ※ 「95-7-35」は品種育成中の系統番号。

[研究の成果]

○「やぶきた」比2倍の超多収性

- ・「95-7-35」の10a当たり生葉収量は、4年間の平均で、「やぶきた」と比較して一番茶が2.2倍、二番茶が2.6倍、秋冬番茶(秋整枝量)が1.7倍であり、年間合計では2.0倍となる(図1)。

○総合的に優れる荒茶品質

- ・「95-7-35」の一番茶の荒茶品質は、水色が特に優れ、形状、色沢も「やぶきた」に比較して優れている。水色は青み、香味は甘みがあり、総合的な品質は「やぶきた」より優れる(図2)。

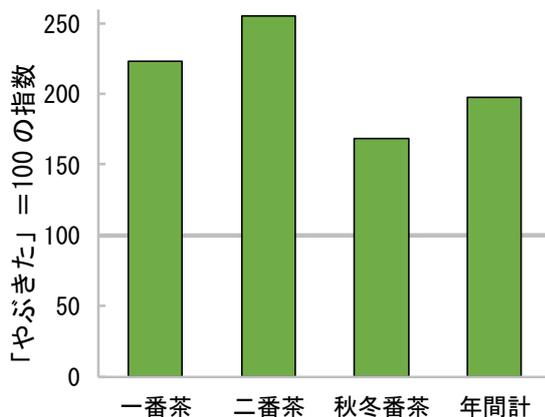


図1 10a 当たり収量
(定植4～7年目平均)

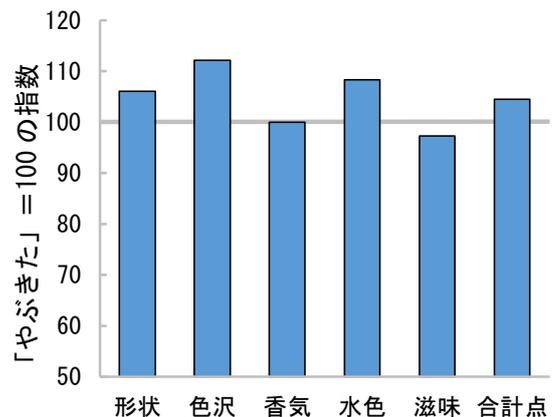


図2 一番茶の荒茶品質
(官能評価点、定植6～7年目平均)

○来歴及びその他特性

- ・来歴：種子親♀「ごこう」×花粉親♂「香駿」
- ・早晚性：晩生(一番茶摘採期「やぶきた」比+6日)
- ・樹姿：開張型
- ・樹勢：強
- ・耐寒性：赤枯れ『やや強』
- ・耐病性：炭疽病『強』、赤焼病『中』
- ・耐虫性：クワシロカイガラムシ『中』



図3 「95-7-35」の一番茶新芽と水色